








シスプラチン + 5-FU + キイトルーダの治療をお受けになる方へ

★治療スケジュール

症状や経過に合わせて治療スケジュールが変わることがあります。

お薬の名前	1日目	2日目	3日目	4日目	5~21日目
キイトルーダ (ペムプロリスマブ) 200 mg	 30分	お休み			
吐き気止め	 30分				
シスプラチン (シスプラチン) mg	 1時間	お休み			
5-FU (フルオロウラシル) mg	 24時間	 24時間	 24時間	 24時間	お休み

★起こりやすい副作用 これらの副作用が、すべての方に起こるわけではありません。

＜血液検査からわかる副作用＞

白血球減少

白血球は体内へ進入した細菌から体を守る重要な役割があり、治療開始後10~14日頃に最も少なくなり、菌やウイルスに感染しやすくなります。

⇒日頃から手洗い、うがいなどの感染対策を！ 白血球が少ない時期は人ごみを避けましょう。

貧血

副作用による貧血の場合、めまい、ふらつきなどの症状としてあらわれることがあります。場合によっては、薬で治療をしたり、輸血をすることもあります。

血小板減少

血小板は出血した時に血を止める働きがあります。血小板が少なくなると、歯肉からの出血や内出血、鼻血などが起こりやすくなります。

⇒血小板が少ない時期は、ケガをしないように注意して下さい。

腎機能障害

抗がん剤の影響で腎臓がうまく働かなくなることがあります。腎臓の働きが悪くなると、お薬が体内から抜けにくくなり、副作用が強くなる場合があります。

⇒500mLのペットボトル、2本ぐらいを目安に水分をとりましょう。



＜ご自身でわかる副作用＞

悪心・嘔吐・食欲不振

個人差の大きい副作用です。治療時期に合った吐き気止めを使います。ただし、水分もとれない場合は病院へ連絡して下さい。

⇒食欲がなくても、水分はしっかりとるようにして下さい。

下痢

1日3回以上の排便、もしくは明らかな排便回数の増加がみられた場合は、下痢止めを服用して下さい。下痢止めを2回服用しても、よくなる場合は、病院への連絡が必要です。

⇒脱水を防ぐために、下痢または軟便の時は、水分をしっかりとりましょう。

口内炎

治療開始1週間ほどで口の中や歯肉がしみる、ひりひりする、赤くなるといった症状が出る場合があります。うがい薬や口腔用の軟膏を使うことがあります。痛くて食事がとれない場合は、病院へ連絡して下さい。

⇒こまめにうがいや歯みがきをして、口の中を清潔に保って下さい。

末梢神経障害

治療回数が増えると徐々にしびれが出てくる場合があります。治療を終えても、しびれが回復するまで時間がかかります。

⇒日常生活に支障が出る時は、主治医に相談して下さい。

聴覚障害

シスプラチンを繰り返し点滴することにより、高い音が聞き取りづらくなったり、耳鳴りすることがあります。

⇒治療前に比べ、人の話し声が聞き取りにくく感じる時は、主治医に申し出て下さい。

キイトルーダの注意すべき副作用

間質性肺炎、大腸炎・重度の下痢、重度の皮膚障害、神経障害、肝機能障害、内分泌障害、1型糖尿病、腎機能障害、膵炎、筋炎・横紋筋融解症、重症筋無力症、心筋炎、脳炎・髄膜炎、免疫性血小板減少症、貧血、点滴時の過敏症反応、ぶどう膜炎

⇒比較的にまれな副作用ですが、重篤化する場合があるので注意が必要です。個々の症状については別冊の冊子を参照してください。

しゃっくり

しゃっくりがでることがあります。

⇒長く続く場合は、しゃっくりを抑えるためにお薬を使うこともあります。

★すぐに連絡をいただきたい副作用



- ★「階段を登ったり、少し無理をしただけで息切れがする・息苦しくなる」、「空咳が出る」、「発熱する」このような症状が急に現れる、または以前から症状があった場合は、症状が急に悪くなる。(間質性肺炎)
- ★「尿量が少なくなる」、「ほとんど尿が出ない」、「一時的に尿量が多くなる」、「むくみ」、「体がだるい」(急性腎不全)
- ★「動くと息が苦しい」、「疲れやすい」、「足がむくむ」、「急に体重が増えた」(心障害)

※ここに記載した副作用以外にも、体の異常を感じたら病院にご連絡ください。